

# 令和6年度 沖縄県立浦添工業高等学校 一般入学・第2次募集入学選抜基準及び選抜方法

## 1. 選抜基準

本校校長は、受検者の出身中学校長から提出された調査書、学力検査等の成績及び面接の結果を基にして選抜を行う。調査書と学力検査等の成績との比重は、5対5とする。

## 2. 選抜方法

### (1) 相関図の作成

#### (ア) 学力検査点の設定

受検者の学力検査の5教科の得点（300点満点）の合計とする。

#### (イ) 内申点の設定

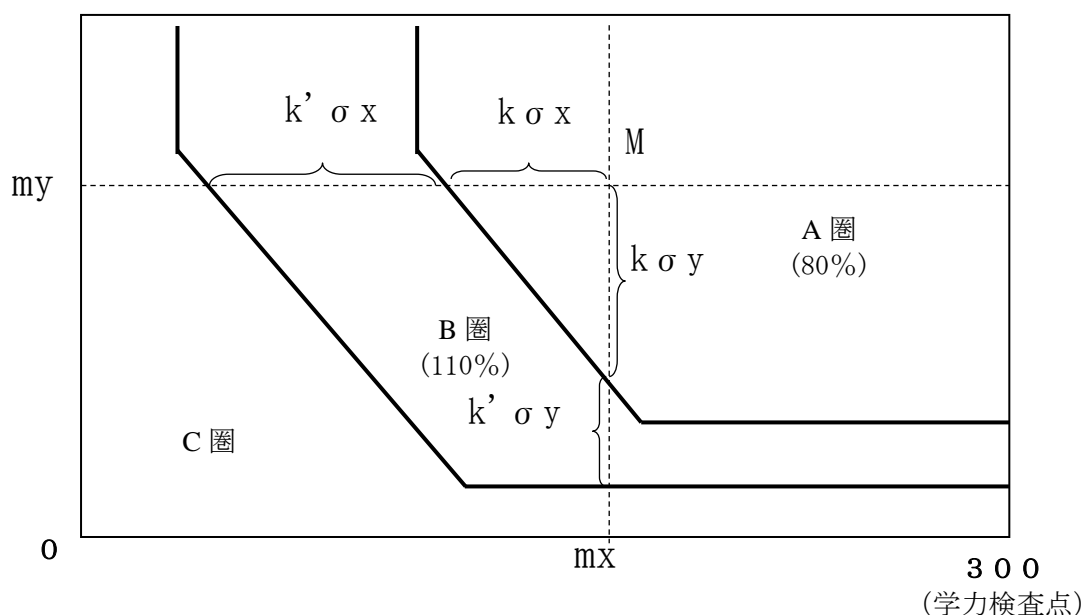
調査書を基に志願者の内申（5段階評価）を165点満点で得点（以下内申点という。）化する。内申点の設定方法は、国語、社会、数学、理科、英語の5教科の評定を合計した数値と、音楽、美術、保健体育、技術・家庭の4教科の評定を合計した数値に1.5倍した数値との合計とする。

#### (ウ) 相関図

内申点を縦軸、学力検査点を横軸とした相関図をつくり、次の図のように各圏を設定する。

(内申点)

165



<備考>

$m_x$  : 学力検査点の平均点       $m_y$  : 内申点の平均点       $M$  : 内申点・学力検査点の平均点の交点

$\sigma_x$  : 学力検査点の標準偏差値       $\sigma_y$  : 内申点の標準偏差値

$k$ 、 $k'$  : 定数は、本校校長が決める。

斜線 : 傾きの程度は、受検生の内申点と学力検査点の標準偏差によって決まる。

(エ) 各圏の設定方法

① A圏

本校の各学科内の受検生の内申点、学力検査点に基づいて募集人員(推薦合格内定者を除く、以下同じ)の80%程度の受検生が含まれるように範囲を設定し、これをA圏とする。

② B圏

本校の各学科内の受検生の内申点、学力検査点に基づいて募集人員の110%程度の受検生が含まれるように範囲を設定し、それから上記のA圏を除いた範囲をB圏とする。

③ C圏

本校の各学科内の受検生から、上記のA圏とB圏を除いた残りの受検生の範囲をC圏とする。

(2) 面接に関する評価

受検生全員に面接を実施する。面接の評価はA、B、Cで評価し、標準は「B」とする。

(3) 合格者、不合格者の決め方

ア A圏の中で下記の条件1の(a)、(b)、(c)のいずれかに該当するもの以外は合格とする。

ただし、第二志望の者は、B圏として扱う。

イ C圏の中で条件2の(a)、(b)、(c)、(d)のいずれかに該当するもの以外は不合格とする。

ウ B圏の者にア、イで保留になった者を含めて条件2の(a)、(b)、(c)、(d)により総合的に判断し、合格者を決定する。

条件1

(a) 行動等の記録に好ましくない記載がある者

(b) 正当な理由がなく、欠席の数が多い者。

(c) 学力検査点または、内申点が著しく悪い者

条件2

(a) 観点別学習状況が著しく良い者

(b) 学力検査点が著しく高い者

(c) 内申点が著しく高い者

(d) 行動等の記録が著しく良い者

審議事項

下記のいずれかに該当する受験生は、審議の対象とする。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 中学3年生において、教科の成績に「1」を有する者</li><li>② 無届欠席が中学3ヵ年で合計10回以上の者</li><li>③ 学力検査において、1教科でも10点未満の得点を有する者</li><li>④ 面接で著しく本校の教育方針に反すると判断された者(面接評価「C」の者)</li><li>⑤ 長期欠席者(理由の如何にかかわらず、いずれかの学年で30日以上欠席がある者、または、中学3ヵ年を通して合計50日以上欠席がある者)</li><li>⑥ 問題行動の事実が判明した者</li></ul> |
|---|